

平成29年度 全国学力・学習状況調査

(平成29年4月18日 実施)

高石市立小・中学校

調査結果概要

平成29年10月

高石市教育委員会

調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

- I…教科に関する調査
- | | | |
|------|---------|------------------|
| 小学校： | 国語A・算数A | (主として「知識」に関する問題) |
| | 国語B・算数B | (主として「活用」に関する問題) |
| 中学校： | 国語A・数学A | (主として「知識」に関する問題) |
| | 国語B・数学B | (主として「活用」に関する問題) |

II…アンケート調査 児童生徒対象・学校対象

(3) 調査対象

小学校第6学年 (高石市：7校 児童数：488人) 中学校第3学年 (高石市：3校 生徒数：512人)

(4) 調査実施日

平成29年4月18日 (火)

(5) 調査結果の取扱いについて

- 平成29年度調査は、全校調査で行われた。
- 本調査は、競争を目的とするものではなく、すべての子どもたちの学力や学習状況を把握し分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としている。
- 本調査により測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものである。

平成29年度 本市の校種・教科・区分別正答率

| 小学校 | | 平均正答率 | | |
|-----|------|----------|----------|---------|
| | | 高石市 (公立) | 大阪府 (公立) | 全国 (公立) |
| 国語 | A 区分 | 72 | 72 | 74.8 |
| | B 区分 | 54 | 54 | 57.5 |
| 算数 | A 区分 | 79 | 78 | 78.6 |
| | B 区分 | 45 | 45 | 45.9 |

| 中学校 | | 平均正答率 | | |
|-----|------|----------|----------|---------|
| | | 高石市 (公立) | 大阪府 (公立) | 全国 (公立) |
| 国語 | A 区分 | 74 | 75 | 77.4 |
| | B 区分 | 67 | 69 | 72.2 |
| 数学 | A 区分 | 62 | 64 | 64.6 |
| | B 区分 | 45 | 46 | 48.1 |

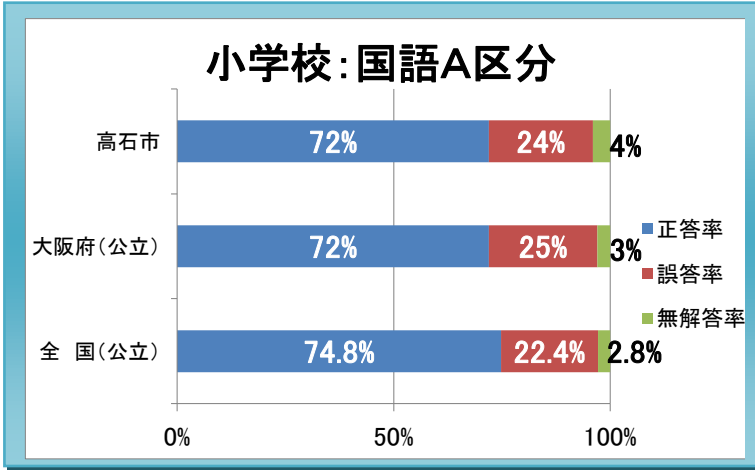
上表の本市平均正答率の数値データは、市内の全小学校・全中学校のデータに基づいて表しています。
 ※今年度より、国の結果公表が整数値のため、本市及び大阪府の平均正答率は整数で表しています。

平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について

- ◇小学校では、国語A区分 (主として「知識」に関する問題)・B区分 (主として「活用」に関する問題)、算数B区分が、全国平均を下回っていますが大阪府平均と同等、算数A区分では、大阪府・全国平均ともに少し上回る結果です。
- ◇中学校では、国語A区分 (主として「知識」に関する問題)・B区分 (主として「活用」に関する問題)、数学A・B区分ともに、大阪府・全国平均ともに下回る結果です。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【小学校】

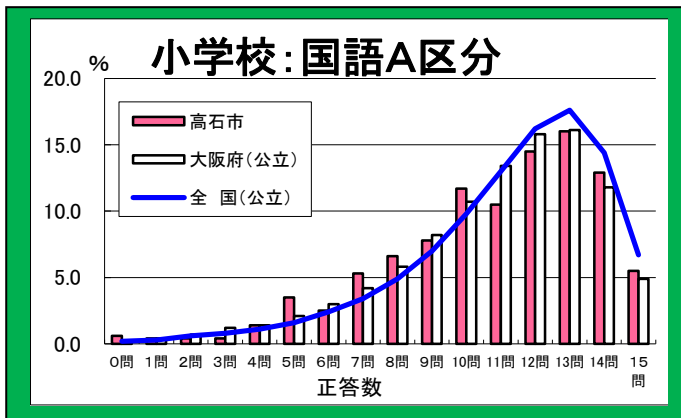
小学校国語（A区分）結果から見えてくる課題



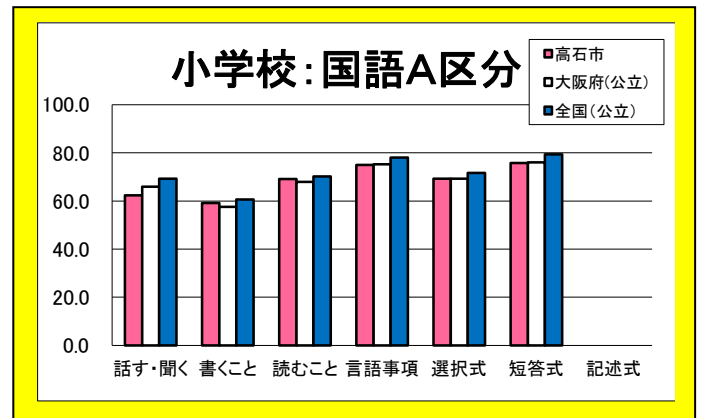
A区分問題（主として「知識」に関すること）

- ◆全国の平均正答率が74.8%であるのに対し、高石市は72%であり、2.8ポイント下回った。
- ◆大阪府の平均正答率は、72%であり、同等であった。
- ◆無解答率においては全国の状況より1.2ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

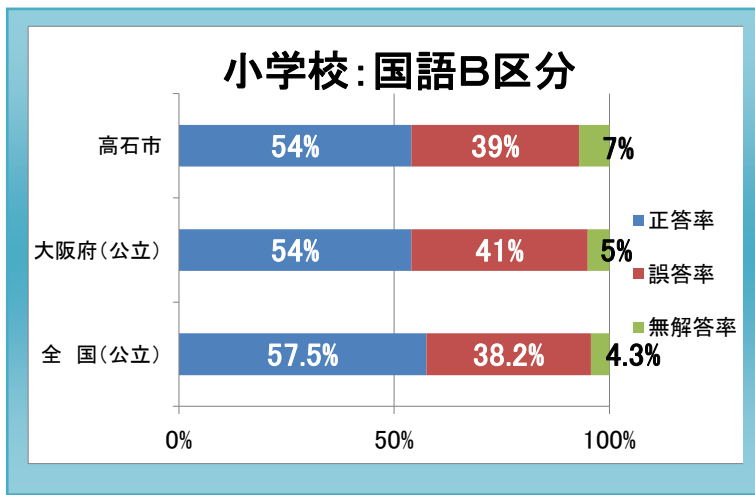


※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A区分に見られる傾向について

- ◆A区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、全15問中、4～10問正答した人の割合は、全国よりも多くなっており、依然として基礎・基本の定着に課題があります。
- ◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。しかし、「書くこと」「読むこと」の領域では、昨年度と比べて全国との差が縮まっており、一定の成果がみられます。
- ◆設問別にみると、「俳句の情景を捉える」問題では、正答率が全国より高くなっています。しかし、その他の設問では、正答率が全国よりも低い傾向がみられます。特に、「司会などの役割を果たしながら、互いの共通点や相違点を整理する」問題の正答率が全国との差が大きく、「司会者の役割として、発言の共通点や相違点を確認したり、話し合った内容をまとめたりする力」に課題があります。
- ◆無解答率については、全国よりも数値が高くなっております。

小学校国語 (B区分) 結果から見えてくる課題

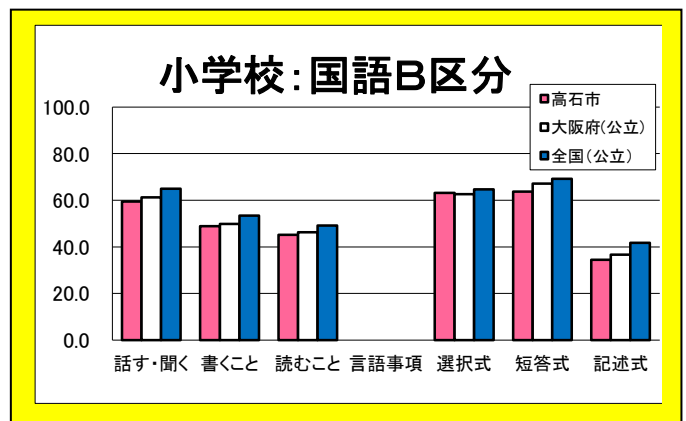
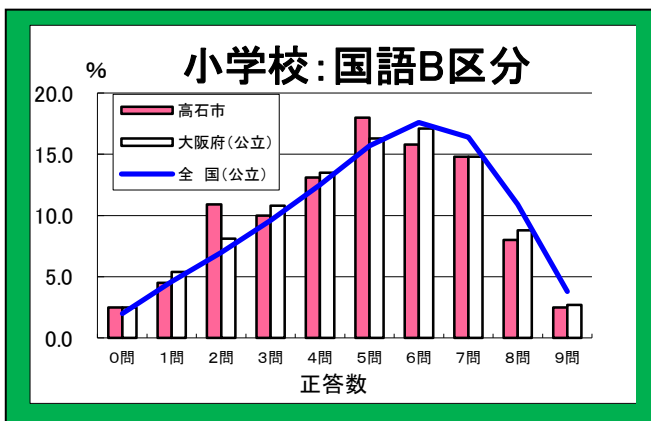


B区分問題 (主として「活用」に関すること)

- ◆全国の平均正答率が57.5%であるのに対し、高石市は54%であり、3.5ポイント下回った。
- ◆大阪府の平均正答率は、54%であり、同等であった。
- ◆無解答率においては全国の状況より2.7ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

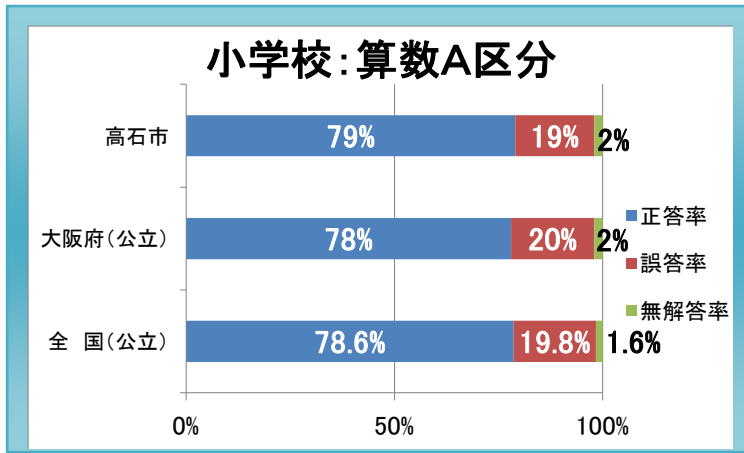


※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

B区分に見られる課題等について

- ◆B区分 (主として「活用」に関する問題) において、正答数の分布では、全9問中0～5問正答した人の割合が、全国よりも多くなっており、活用力の底上げが課題としてあげられます。
- ◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。
- ◆設問別にみると、「目的や意図に応じ、引用して書く」問題では、正答率が全国より高くなっています。しかし、その他の設問では、正答率が全国よりも低い傾向がみられます。特に、「目的に応じて自分の考えをまとめる」問題 (P.15 参照) の正答率が全国との差が大きく、「自分の考えを書く力」に課題があります。
- ◆無解答率については、全国よりも数値が高くなっています。特に、記述式の問題における数値が高くなっており、「理由を明確にして、自分の考えをまとめる力」に課題があります。

小学校算数（A区分）結果から見えてくる課題

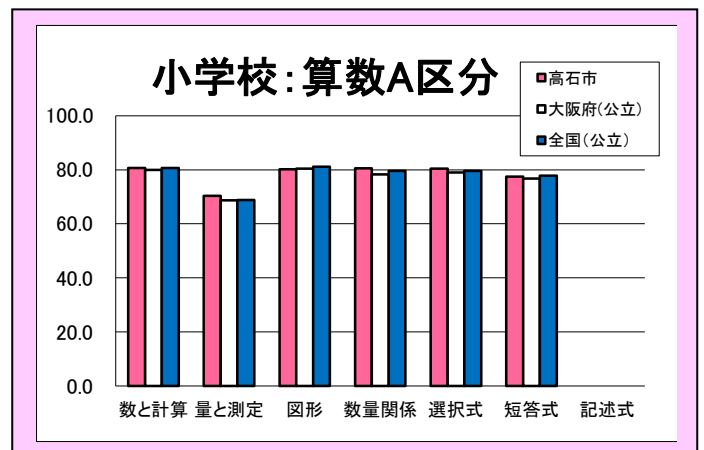
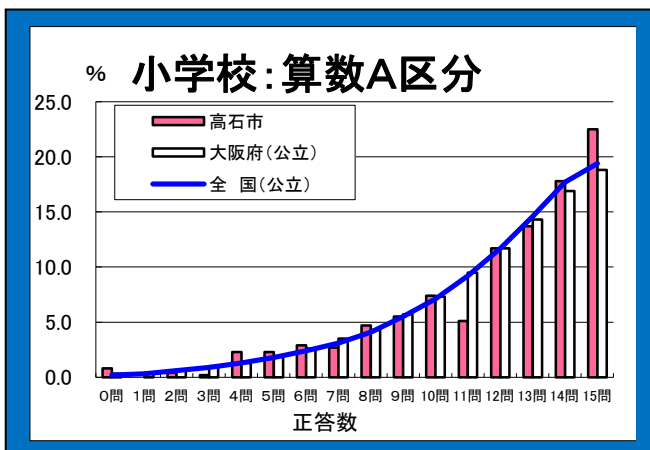


A区分問題（主として「知識」に関すること）

- ◆全国の平均正答率が78.6%であるのに対し、高石市は79%であり、0.4ポイント上回った。
- ◆大阪府の平均正答率は、78%であり、1ポイント上回った。
- ◆無解答率においては全国の状況より0.4ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

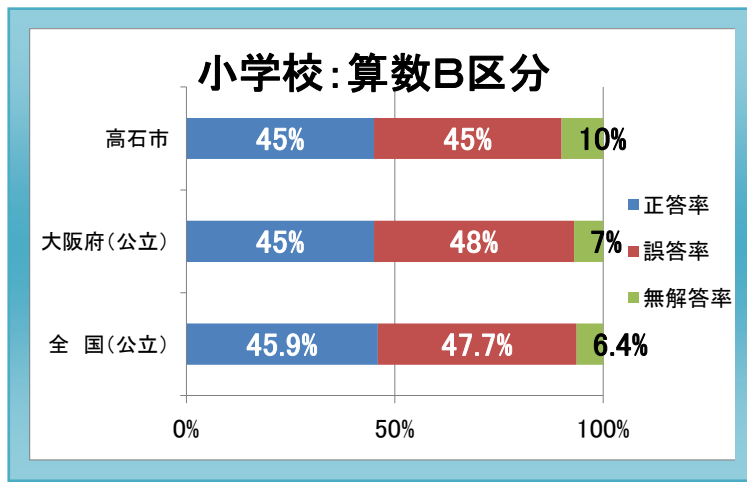
領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A区分に見られる傾向について

- ◆A区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、15問全問正答した人の割合は、全国よりも多くなっており、一定の改善がみられます。しかし、4～6、8～10問正答した人の割合は、全国よりも多くなっており、依然として基礎・基本の定着を図る必要があります。
- ◆領域別にみると、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域について、全国より高い正答率になっています。
- ◆設問別にみると、全15問中9問で正答率が全国より高く、一定の成果がみられます。しかし、「最小公倍数を求める」問題で、全国の正答率との差が大きくなっています。また、「正五角形の性質の理解」の定着に課題があります。
- ◆無解答率については、全国よりも若干数値は高くなっています。特に、「3けた×2けたの計算」「2つの数量関係」を問う問題における数値が高くなっており、基礎・基本の定着に課題があります。

小学校算数（B区分）結果から見えてくる課題

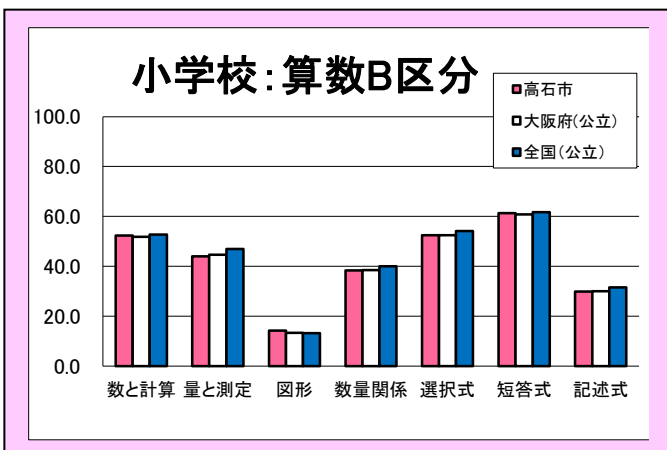
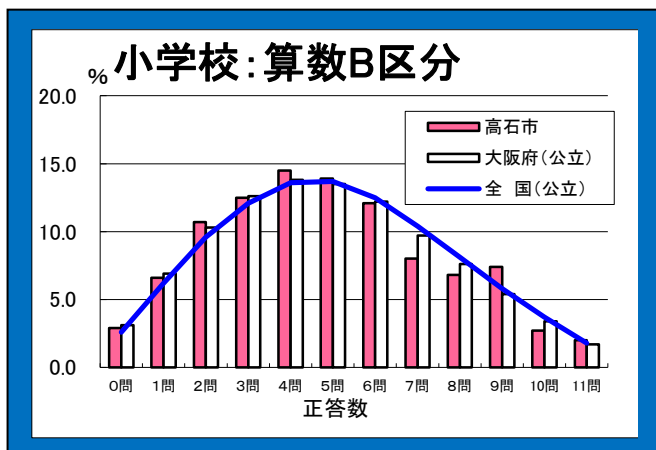


B区分問題（主として「活用」に関すること）

- ◆全国の平均正答率が45.9%であるのに対し、高石市は45%であり、0.9ポイント下回った。
- ◆大阪府の平均正答率は、45%であり、同等であった。
- ◆無解答率においては全国の状況より3.6ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



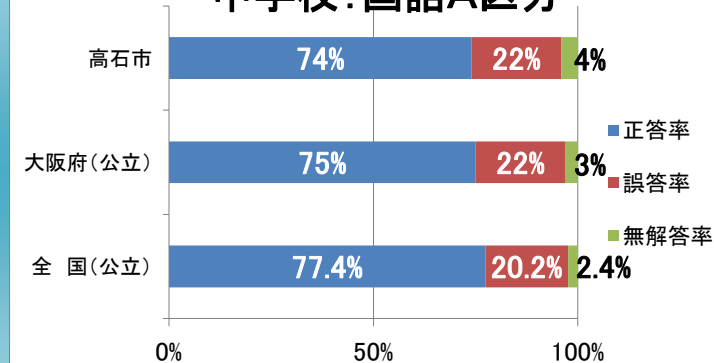
B区分に見られる課題等について

- ◆B区分（主として「活用」に関する問題）において、正答数の分布では、全11問中、0～5問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、活用力の底上げが課題としてあげられます。
- ◆領域別にみると、「図形」の領域について全国より高い正答率になっており、一定の成果がみられます。しかし、その他の領域について、全国より低い正答率になっています。
- ◆設問別にみると、各設問の正答率は、全国よりも低い傾向がみられます。特に、「日常生活の問題解決のために測定値を平均する考えを用いて適切に判断する」問題（P.16参照）で、全国の正答率との差が大きくなっており、「場面や状況に応じて数理的に処理する力」に課題があります。
- ◆無解答率については、昨年度より引き続き、全国よりも数値は高くなっています。特に、記述式の問題における数値が高くなっており、「日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力」に課題があります。

各教科に関する調査結果（高石市）の概要 【中学校】

中学校国語（A区分）結果から見えてくる課題

中学校：国語A区分



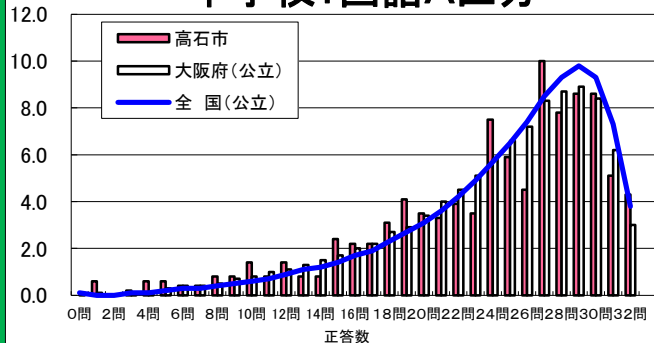
A区分問題（主として「知識」に関すること）

- ◆全国の平均正答率が77.4%であるのに対し、高石市は74%であり、3.4ポイント下回った。
- ◆大阪府の平均正答率は75%であり、1ポイント下回った。
- ◆無解答率においては全国の状況より、1.6ポイント高くなっている。

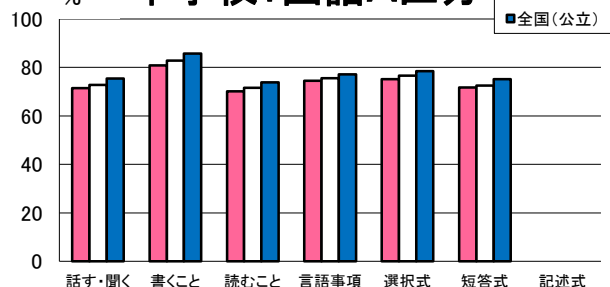
正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

中学校：国語A区分



中学校：国語A区分

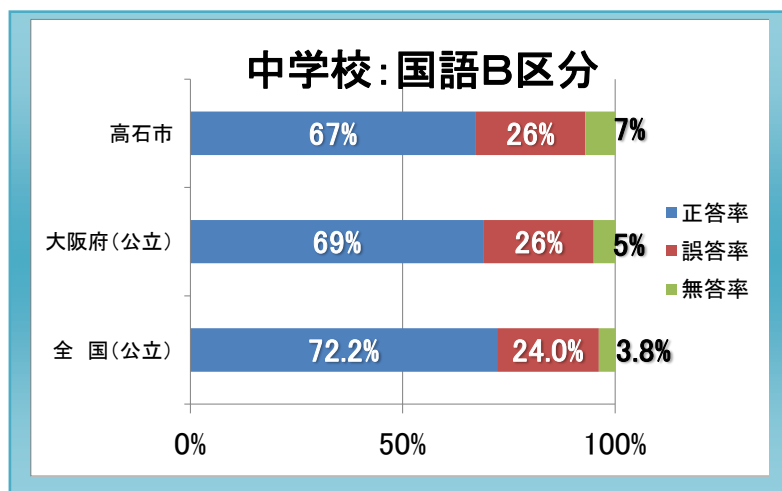


※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

A区分に見られる傾向について

- ◆A区分（主として「知識」に関する問題）において、正答数の分布では、全32問中、1～12問正答した人の割合が全国より多く、基礎基本の定着について課題がみられます。
- ◆領域別にみるとすべての領域について、全国より低い正答率になっています。
- ◆設問別にみると、正答率は、全国より低い傾向が見られます。特に、「文章の構成を工夫して分かりやすく書く」問題の正答率が全国との差が大きく、「伝えたい事実や事柄を明確にして文章の構成を工夫する力」に課題がみられます。
- ◆無解答率については、全国よりも若干高くなっています。特に、「多様な語句について理解しているか」をみる問題が全国との差が大きく、「話や文章で用いる語彙力」に課題があります。

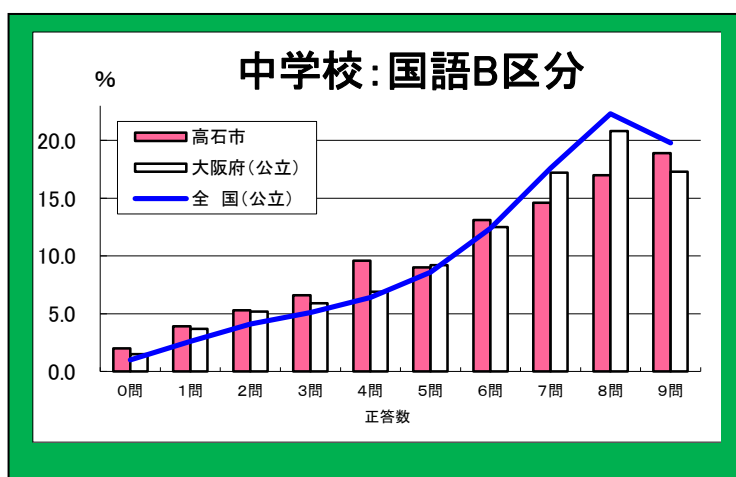
中学校国語 (B 区分) 結果から見えてくる課題



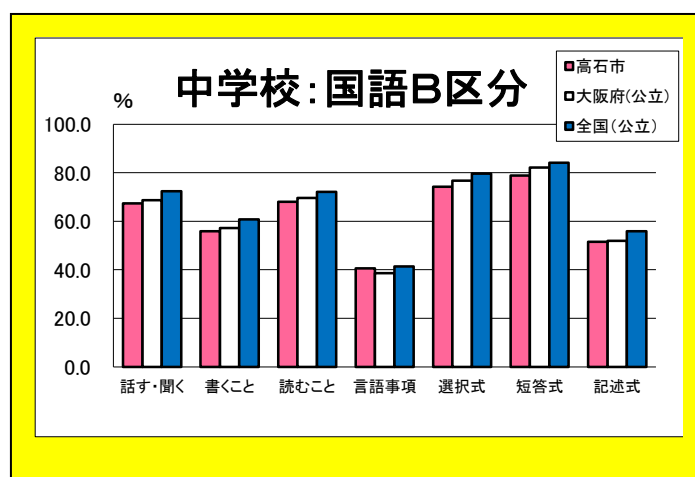
B 区分問題 (主として「活用」に関すること)

- ◆ 全国の平均正答率が 72.2% であるのに対し、高石市は 67% であり、5.2 ポイント下回った。
- ◆ 大阪府の平均正答率は 69% であり、2 ポイント下回った。
- ◆ 無解答率においては全国の状況より 3.2 ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

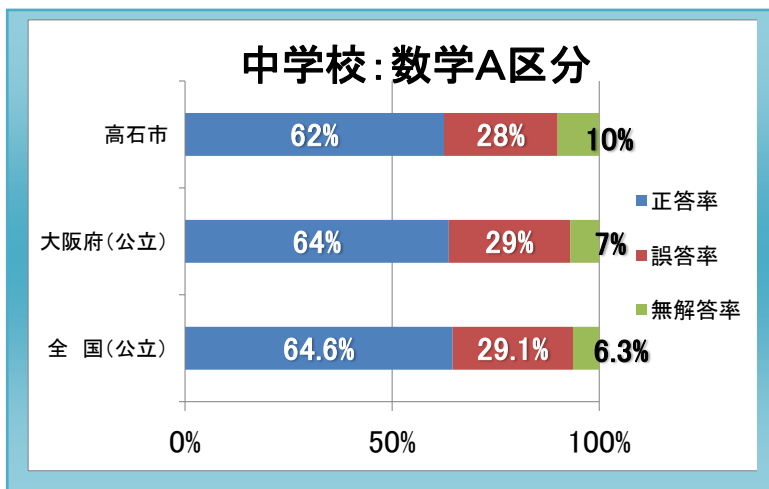


※「話すこと・聞くこと」の領域は、スペースの関係上「話す・聞く」と省略表記しています。

B 区分に見られる傾向について

- ◆ B 区分 (主として「活用」に関する問題) において、正答数の分布では全 9 問中 0~6 問正答した人の割合が全国よりも多く、活用力の底上げが課題としてあげられます。
- ◆ 領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。
- ◆ 設問別にみると、すべての問題において、全国より低い正答率になっています。特に、「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」問題や、「事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話す」問題 (P.17 参照) の正答率が全国との差が大きく、「話の要点を聞く力」や「事実や事柄と考えや感想等との関係に注意して話す力」に課題がみられます。
- ◆ 無解答率については、昨年に引き続き全国よりも数値は高くなっています。特に、「表現の仕方について捉え自分の考えを書く」問題の全国との差が大きく、「伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書く力」に課題があります。

中学校数学 (A区分) 結果から見えてくる課題

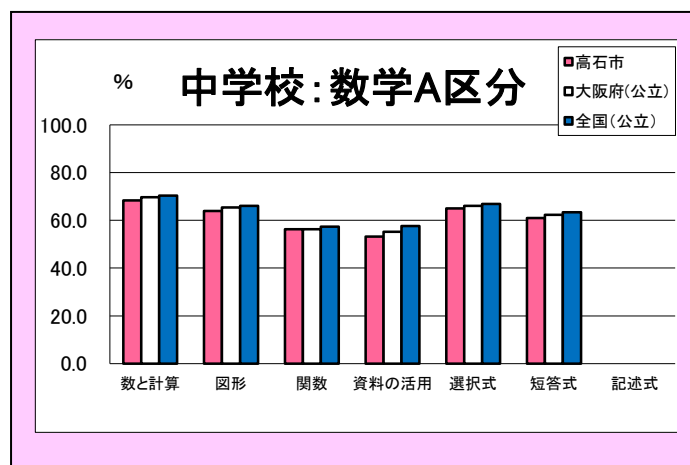
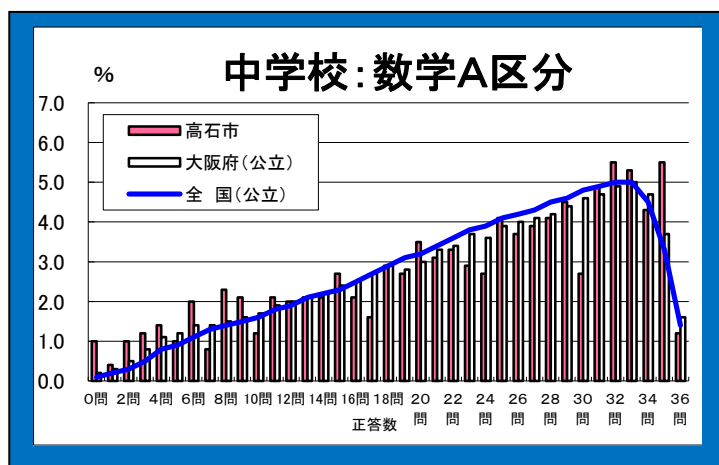


A区分問題 (主として「知識」に関すること)

- ◆全国の平均正答率が64.6%であるのに対し、高石市は62%であり、2.6ポイント下回った。
- ◆大阪府の平均正答率は64%であり、2ポイント下回った。
- ◆無解答率においては全国の場合より3.7ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ

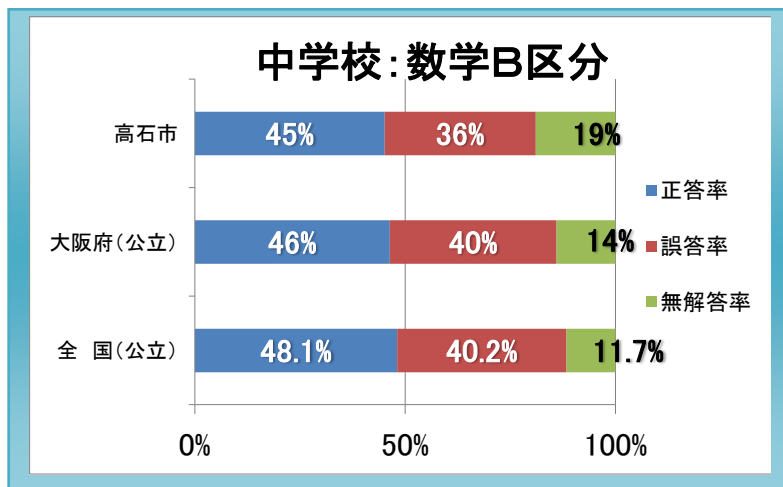
領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



A区分に見られる傾向について

- ◆A区分 (主として「知識」に関する問題) において、正答数の分布では、全36問中35問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、一定の成果がみられます。しかし、全36問中0~6問、8~9問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、依然として、基礎・基本の定着に課題があります。
- ◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。
- ◆設問別にみると、各設問の正答率は全国より低い傾向がみられます。特に、「平行四辺形になるための条件を理解しているかどうかをみる」問題の正答率が全国との差が大きく、「図形の性質を論理的に考察し表現する力」に課題があります。
- ◆無解答率については、全国よりも高くなっており、課題がみられます。特に「具体的な場面で一元一次方程式をつくる」問題の無解答率が全国との差が大きく、「着目する数量を見出し、一元一次方程式をつくる力」に課題があります。

中学校数学 (B 区分) 結果から見える課題



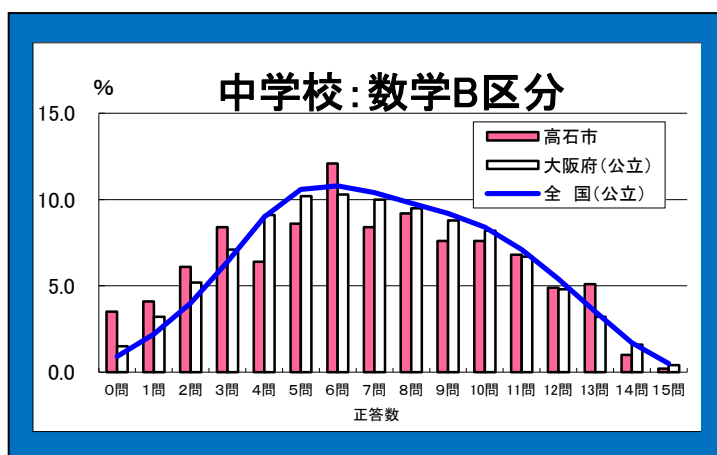
B 区分問題 (主として「活用」に関すること)

◆全国の平均正答率が48.1%であるのに対し、高石市は45%であり、3.1ポイント下回った。

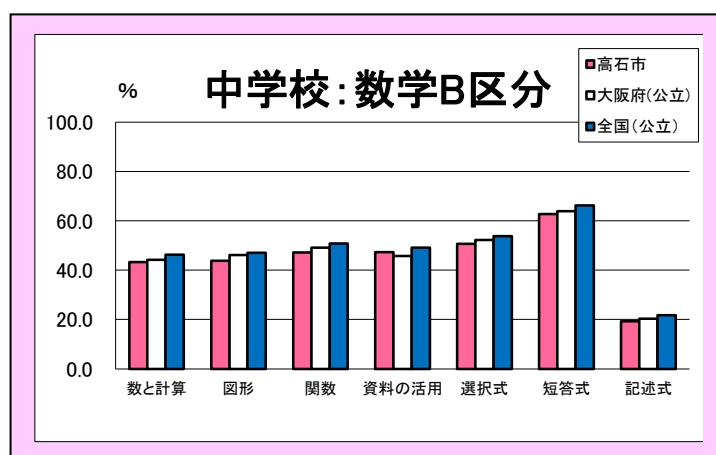
◆大阪府の平均正答率は46%であり、1ポイント下回った。

◆無解答率においては全国状況より7.3ポイント高くなっている。

正答数の分布を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



領域別での正答率を全国平均・大阪府平均と比較したグラフ



B 区分に見られる傾向について

- ◆B 区分 (主として「活用」に関する問題) において、正答数の分布では、全15問中0~3問正答した人の割合が全国よりも多くなっており、活用力の底上げが課題としてあげられます。
- ◆領域別にみると、すべての領域について、全国より低い正答率になっています。
- ◆設問別にみると、「証明した事柄を用いて新たな性質を見出す」問題において、正答率が全国との差が大きく、「ある条件のもとで成り立つ性質や関係に着目し、図形を考察する力」に課題があります。
- ◆無解答率については、全国よりも数値は高くなっています。特に、「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明する」問題や、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題 (P.18参照) では、半数近くが無解答になっており、「数学的に説明する力」に課題があります。

質問紙調査の結果概要 結果から見えてくる課題

単位は、%

| | 質問項目 | | 高石市 | | | 全国 | | |
|---|---|---|------|------|------|------|------|------|
| | | | H27 | H28 | H29 | H27 | H28 | H29 |
| ① | 朝食を毎日食べている | 小 | 89.6 | 93.9 | 92.8 | 95.6 | 95.5 | 95.4 |
| | | 中 | 93.4 | 91.6 | 91.4 | 93.5 | 93.3 | 93.2 |
| ② | 自分にはよいところがある | 小 | 70.6 | 67.5 | 73.2 | 76.4 | 76.3 | 77.9 |
| | | 中 | 62.8 | 58.9 | 65.5 | 68.1 | 69.3 | 70.7 |
| ③ | 将来の夢や目標をもっている | 小 | 86.1 | 83.4 | 85.3 | 86.9 | 85.3 | 85.9 |
| | | 中 | 73.7 | 68.5 | 69.9 | 71.7 | 71.1 | 70.5 |
| ④ | 人の役に立つ人間になりたいと思う | 小 | 92.4 | 91.0 | 90.5 | 93.7 | 93.8 | 92.5 |
| | | 中 | 93.2 | 90.9 | 91.4 | 93.7 | 92.8 | 91.9 |
| ⑤ | いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う | 小 | 96.3 | 95.2 | 94.4 | 96.2 | 96.6 | 96.1 |
| | | 中 | 91.9 | 89.1 | 88.3 | 93.7 | 93.6 | 92.8 |
| ⑥ | 学校に行くのが楽しい | 小 | 84.8 | 86.9 | 84.1 | 87.0 | 86.3 | 86.3 |
| | | 中 | 86.7 | 82.9 | 76.5 | 82.1 | 81.4 | 80.9 |
| ⑦ | 学校のきまりをまもっている | 小 | 81.8 | 86.1 | 90.0 | 91.1 | 91.5 | 92.6 |
| | | 中 | 93.8 | 89.4 | 93.2 | 94.4 | 94.7 | 95.2 |
| ⑧ | 読書が好き | 小 | 62.8 | 61.2 | 68.2 | 72.8 | 74.6 | 74.3 |
| | | 中 | 54.6 | 53.1 | 52.7 | 67.9 | 69.9 | 69.9 |
| ⑨ | 学校の授業以外の読書時間が30分以下(月～金) | 小 | 72.5 | 71.5 | 70.7 | 59.6 | 63.5 | 63.4 |
| | | 中 | 75.5 | 77.5 | 79.7 | 69.3 | 71.8 | 70.6 |
| ⑩ | 1日あたり1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする。(月～金) | 小 | 19.4 | 22.9 | 27.0 | 16.9 | 18.5 | 20.5 |
| | | 中 | 54.8 | 55.6 | 53.9 | 47.6 | 47.8 | 50.4 |
| ⑪ | 家庭学習の時間が30分以下(月～金) | 小 | 22.2 | 18.8 | 19.8 | 12.1 | 11.9 | 11.3 |
| | | 中 | 19.5 | 22.4 | 20.7 | 13.9 | 14.4 | 13.2 |
| ⑫ | 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。 | 小 | 63.5 | 62.0 | 63.1 | 55.2 | 54.6 | 53.7 |
| | | 中 | 71.3 | 73.1 | 71.1 | 64.4 | 62.8 | 62.8 |
| ⑬ | 国語の勉強は好きだ | 小 | 57.5 | 51.9 | 52.5 | 61.1 | 58.8 | 60.5 |
| | | 中 | 58.9 | 54.7 | 54.1 | 60.5 | 59.8 | 60.5 |
| ⑭ | 算数・数学の勉強は好きだ | 小 | 64.9 | 58.8 | 61.9 | 66.6 | 66.0 | 65.9 |
| | | 中 | 56.2 | 57.3 | 53.2 | 56.0 | 56.0 | 55.4 |

課題等について

- ①の項目は、昨年度より小中学校ともに低く、引き続き、「三つの朝運動」のリーフレットでの啓発や学校での食育の取組みを行い、改善していく必要があります。
- ②③の項目は、小中学校とも全国より低いが、昨年度より向上しており、小中9年間で系統立てたキャリア教育を推進している成果が表れています。
- ⑤の項目は、小中学校ともに昨年度よりも低く、いじめは絶対にゆるされないということを子どもたちに気付かせる取組みを今後も引き続き進めていきます。
- ⑦の項目は、小中学校ともに全国よりも低い傾向が続いていますが、小中学校ともに昨年度より向上しており、授業規律を学校全体として取り組んでいる成果が表れています。
- ⑧の項目は、全国より低い傾向が続いていますが、小学校においては昨年度より大幅に向上しています。しかし、⑨の項目は、中学校においては昨年度より下回っているため、引き続き、読書活動の充実に向けた取組みを進めていく必要があります。
- ⑩⑪の項目は、全国より高い傾向が続いていますが、中学校においては昨年度より改善しています。しかし、小学校においては昨年度より上回っているため、引き続き家庭との連携が必要となります。
- ⑬⑭の項目は、小学校においては昨年度より向上していますが、中学校においては下回っています。しかし、小中学校ともに全国と比べて下回っているため、引き続き授業改善を進めていく必要があります。

今後の取組みについて、P14 を参照ください。

調査結果から

本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した結果、昨年度より、小中学校の国語、算数・数学のどの区分においても全国との差が縮まりました。これは、各小中学校で推進している習熟度別授業を取り入れた少人数によるきめ細かな指導や小中連携推進支援事業を通して9年間を見通した日々の授業改善の取り組み等に成果がみられたと考えます。

今後も引き続き、各学校と教育委員会が連携し、児童生徒の学力向上をめざした取り組みを進めていきます。

課題として、記述式の問題における誤答率、無解答率が高い傾向があり、「**筋道立てた思考をし、自分の考えを書く力**」をつける必要があります。

日々の学習指導の中で、

「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書く活動」

「事柄の特徴を数学的な表現を用いて書く活動」 等

効果的な言語活動や学習活動を充実させ、表現力の伸長を目標とした取り組みを進めていきます。

質問紙調査においては、

「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立つ人間になりたい」という項目について、小中学校ともに昨年の数値を上回っており、自己有用感が向上していることがわかりました。

その一方で、「**いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う**」について、昨年度の数値を下回っていることは、大きな課題です。この課題を解決するため、今後も道德教育等、様々な学習活動を通して「いじめは絶対に許されない」という意識が向上するよう取り組みを進めていきます。

「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間」について、長時間使用する人、

また、「**家庭学習の時間」「読書をする時間**」について、短時間しかしない人、全くしない人の割合が、全国よりも非常に多いことが、課題です。

学校で学んだことを定着させるためには、家庭学習にしっかりと取り組むことが大切です。また、文章を読み取る力は、読書量と大きく関わります。家庭学習の時間や読書の時間を充実させられるよう、機会設定、啓発等に取り組んでいきます。

課題解決を行う方策としましては、平成25年度から、各小・中学校において**学力向上大作戦**と銘打って、各学校の学力改善策を検討し、それに基づいた学力向上のための取り組みを行っております。

今回の結果を受けて、上記の**「携帯電話やスマートフォンの使用」や「家庭学習・読書」の課題を重点**として、引き続き、ご家庭の協力をお願いします。また、次ページに、**家庭での過ごし方等、参考にさせていただける資料及びワークシート**を掲載していますので、併せてご協力をお願いします。

【P14に各学校・高石市教育委員会の取組みと、地域・家庭の皆様にご協力いただきたい点をまとめて記載しております。】

参考資料及びワークシート

◆各学校から出されている家庭学習のてびき等

◆高石っ子の学びを育む 家庭での過ごし方について

(高石市教育委員会から配布)

- 小学校1年生から中学校3年生まで家庭学習を行う際にヒントとなるポイント等についてまとめてあるリーフレットです。

高石っ子の学びを育む
家庭での過ごし方について

保護者の皆さまへ

高石市教育委員会では、『たかいし教育ビジョン（高石市教育振興基本計画）』を策定し、『知（意欲をもって主体的に学習力）、徳（豊かで、思いやりのある心）、『体（たくましく、健康な心身）』のバランスのとれた人間性豊かな思いやりをもつ子どもの育成を心掛けています。

この「家庭での過ごし方について」をぜひご家庭で読んでいただき、子どもたちの日々の家庭学習や家庭生活について、子どもといっしょに、今一度振り返ってくださいますようお願いいたします。

☆知の元氣 「すすんで学習しましょう」
～みんなで協力して家庭を学びの場所にしましょう～

- ・学習する場所の整理整頓をしましょう。
整理することは、気持ち良い生活が送れるとともに、心の中も整理され、集中力も高まります。
- ・家で本を読みましょう。
家で読書をしたはり、読聞かせをしたりしましょう。読書は、知識や教養を高めるだけでなく、表現力も豊かにします。
- ・家庭学習を習慣化しましょう。
時間を決めて、計画的に学習し、宿題は必ず最後までやりとげましょう。また、家族が子どもの「がんばり」を励めて、褒めることも大切です。
- ・調べ学習にも、取り組みましょう。
宿題が終わったら、自分の興味があることについて、本、新聞、インターネットを活用しながら、調べ学習にも取り組んでいきましょう。

◆高石市小中学校授業改善プランについて

(高石市 HP に掲載)

- 学力・学習状況調査の結果分析より、各小・中学校における学力向上に対する取組みを掲載しています。
各学校が学力向上に向けて、どのように取り組んでいるか、一度ご覧ください。

高石市立()小・中学校 学力向上大取組プランニングシート

2022年度～2023年度学力向上取組計画の進捗状況及び対応策の取組計画について

児童・生徒に育養する学力

本校の学力向上に関する取組みプラン(1922年度～2022年度) 実行計画

| | |
|---|----------------------|
| ○ | 【作戦1】 学力向上のための授業改善 |
| + | 【作戦2】 学習環境の確立・学習集団作り |
| + | 【作戦3】 家庭学習・学習活動の推進 |
| + | 【作戦4】 教師間連携の取組み |

各学年の取組目標

| | |
|---------|---------|
| 【作戦1】 * | 【作戦2】 * |
| 【作戦3】 * | 【作戦4】 * |
| 【作戦5】 * | |

【作戦1】 学力向上のための授業改善

【作戦2】 学習環境の確立・学習集団作り

【作戦3】 家庭学習・学習活動の推進

【作戦4】 教師間連携の取組み

◆ケータイ・スマホの使い方について

(高石市教育委員会から配布)

- ケータイ・スマホ使用の家庭でのルールづくり・学校への持ち込み禁止等、使い方についてまとめてあるリーフレットです。

保護者の皆様へ

学校にケータイは必要ありません！

タブレット端末や携帯電話、スマートフォン(以下「ケータイ」と表記)等の情報通信機器は、上記に使うと私たちの日本国や社会に役立つ、便利で美しい道具です。

しかし、ケータイを子どもたちに持ちこたせることで、子どもたちの成長が大きく変わり、悪質なトラブルに巻き込まれるケースが発生しています。また、長時間の使用により学習時間が減り、学力の低下につながることも懸念されています。

このような状況を踏まえ、高石市教育委員会では、**小・中学校への児童・生徒のケータイの持ち込みを原則禁止**としています。

子どもたちが情報通信機器を使う際は、時間制限を設けることや、有害サイトは閲覧できないようフィルタリング設定を行う等のルール作りをして適切に使用することが大切です。情報モラル教育は、家庭での取り組みが学校教育以上に大切です。子どもに要求されるがままにむかみに買いつけるのではなく、使用目的や危険性、ルールやマナーについて、各家庭においてしっかりと教養を身に付け、健全なケータイは、必要な「電機」ではなく「インターネット」であり、でも多量に消費する、半面子どもに持たざる必要があるので、どうしてもケータイがないとダメな状況があるのが、よく承知していただきたいと思います。

保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。

〔高石市立小・中学校内でのケータイの取り扱いについて〕
★学校への児童・生徒のケータイの持ち込みは原則禁止です。

子どもを守るのは あなたです！

平成29年4月
高石市教育委員会

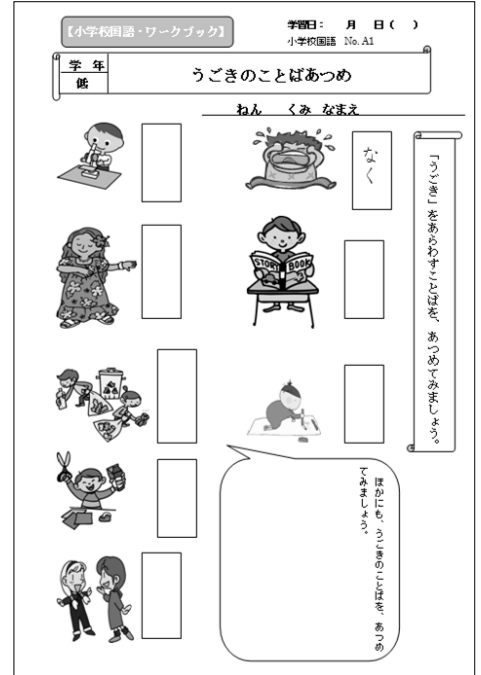
◆自学自習力をはぐくむ ワークブック問題

(大阪府教育委員会が配信)

- 小・中学校全学年の児童生徒が、放課後学習や家庭学習において自主的に 学習することができる教材です。
各学校でも活用しています。

HPアドレス

<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>



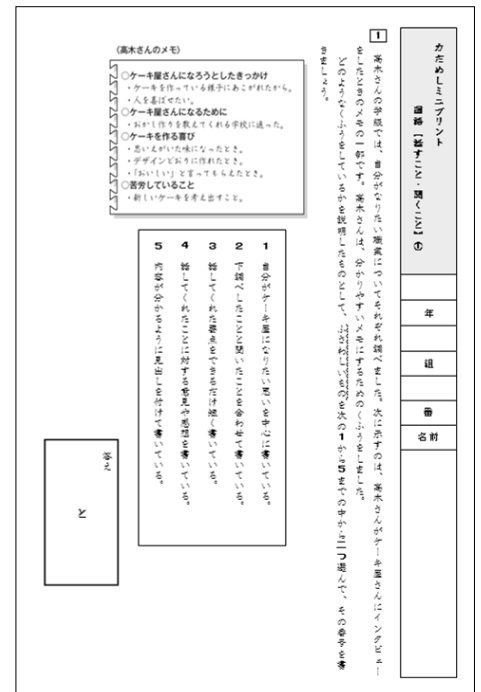
◆力だめしプリント・力だめしミニプリント

(大阪府教育委員会が配信)

- 小・中学校の児童生徒に身につけさせたい学力の中で、知識・技能を活用する力を問う学習教材です。
各学校でも活用しています。

HPアドレス

<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikaramini/index.html>



高石市教育委員会及び学校の取組み

☆ 教育委員会が中心となって取り組んでいること

- ◆各学校が立てた「学力向上大作戦」(P.12 参照)に基づいて、児童生徒が主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進していくために、示範授業の実施や指導助言等、指導主事が継続して学校を支援しています。
- ◆児童生徒にわかりやすい授業を推進していくために、各学校にタブレット端末、デジタル教科書の導入及びICT支援員の配置をしています。効果的なICT機器の活用に向けた研修の実施等、学校を支援しています。
- ◆児童生徒が、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳教育を推進し、指導助言や研修の実施等、学校を支援しています。
- ◆学力向上専門員が各学校の授業を参観し、児童生徒への実践的指導力、学校体制づくり等の指導を行い、各学校の授業改善に努めています。
- ◆外国語教育を推進することにより、子どもたちのコミュニケーション力の素地を育むとともに、児童生徒と外国人留学生との交流等を通して、実践的に外国語を学ぶ機会を増やしています。
- ◆各学校に、学校司書を配置し、児童生徒の情報を活用する力の育成を支援しています。併せて、読書活動の推進も支援し、公共図書館との連携も図っています。
- ◆放課後や、長期休業期間に実施する補充学習へのボランティアを募集し、学校での学習のサポート活動を進めています。
- ◆小中連携として、中学校区での交流や合同の研修会を実施し、幼小中で系統立てたキャリア教育の推進を図っています。
- ◆高石市いじめ防止基本方針に基づく、いじめに対する指導の徹底を図っています。
- ◆3つの朝運動(朝食・あいさつ・朝読書)の取組みを継続しています。

☆ 各学校が現在取り組んでいること

- ◆指導内容・指導方法の工夫の推進
 - ・児童生徒が主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進していくために、指導主事による示範授業や指導助言等の支援をうけ、授業改善に対する取組みの充実
 - ・調査から見える成果と課題を踏まえ、「学力向上大作戦」をもとに、学力向上をめざす取組みの改善
 - ・習熟度別授業を取り入れた、少人数指導や複数教員による指導等、きめ細かな指導の充実
 - ・言語活動を充実させた、児童生徒のコミュニケーション能力の育成をめざした授業の研究
 - ・効果的にICT機器を活用した授業の実践・研究
 - ・大阪府教育センター・大学等外部講師による指導・助言
- ◆学習におけるつまずきの把握と補充指導の充実
 - ・放課後学習の実施
 - ・長期休業期間中の学習会の実施
 - ・「家庭学習のてびき」の作成、配布
- ◆学校司書を活用した学習、読書活動の一層の推進と充実
- ◆一人ひとりが尊重される集団づくりの実現
 - ・人権教育及び道徳教育のさらなる推進
 - ・いじめ防止基本方針に沿った取組み
- ◆チャイム着席など学習規律の徹底を図る取組み
- ◆あいさつ運動など基本的な生活習慣の向上のための取組み

(上記の内容は必ずしも全学校で取り組んでいるのではなく各小中学校が実態に応じて取り組んでいます。)

地域・家庭にご協力いただきたいこと

- ◆各学校における「家庭学習のてびき」等を参考にいただき、子どもたちの宿題の確認や、学校の予習・復習等の自主的な家庭学習に対する意欲向上へのご協力をお願いします。
- ◆携帯電話・スマートフォンやゲーム機の使用など、家庭におけるルール作りと、そのルールの尊重について、子どもと話し合っていたきたいと思えます。
- ◆ご家庭における読書の機会設定や子どもたちへの啓発についてご協力をお願いします。
- ◆「他人を認め、自分を大切にする」こと(自己有用感)の大切さをご家庭でもお話していただきますようお願いします。
- ◆毎日朝食を摂って、朝からしっかり学習活動に取り組めるよう、引き続きご協力をお願いします。
- ◆学校のさまざまな学力向上等の取組み(授業支援や図書、放課後学習活動等のボランティア等)についてご協力をお願いします。
- ◆PTA活動へのご参加とご協力をお願いします。
- ◆各学校の「学校通信」等をご覧いただき、行事や取組みへのご理解とご協力をお願いします。
- ◆各中学校区の「すこやかネット」の活動へのご参加とご協力をお願いします。

小学校国語

○ ○ ○ ○ ○

●

【アドバイス】

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。

まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて畑に行ったらおれかけていたこともあったよ。

それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばらに水やりが必要があるんだ。植木ばらの数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。

水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ごせて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。

何かあったことがあったらいつでも相談にのるよ。がんばって作ってね。

三

桑さんたちは、緑のカーテンを作ったことのある中学生からの「アドバイス」をもとに「緑のカーテン作りへの協力のお願い」の中を書いていきます。次の「イ」の中の「イ」に、緑のカーテン作りへの協力のお願いの内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

○ ○ ○ ○ ○

●

【緑のカーテン作りへの協力のお願い】

緑のカーテン作りへの協力のお願い
6年1組 森・中村・秋山

緑のカーテンとは

夏が来るまで、教室が暑くなってこまごまではありませんか。わたしたちは、それを解決するために緑のカーテンを作ることになりました。

緑のカーテンとは、まどの外に植えたアサガオなどの植物で、日ざしをさえるようにしたものです。緑のカーテンを作ると教室をすずしくすることができます。

中には布のカーテンをしめればよいという人もいるかもしれませんが、しかし、緑のカーテンを使うと布のカーテンよりも室内の温度を下げるすることができます。例えば、「緑のカーテンを始めよう」という本には、「ア」と書かれています。緑のカーテンは、夏をすずしく過ごすためのくふうの一つなのです。

緑のカーテンの作り方

わたしたちは、できれば1階から3階までの全教室をおおうように緑のカーテンを作りたいと考えています。そこで、次のように作ると思っています。

- 1 大きな植木ばらを用意し、肥料と土を入れて1階に置く。
- 2 1階から3階までネットをはる。
- 3 アサガオの種をまく。
- 4 たくさん水をやる。
- 5 一番大きいのが1mぐらいになったら先の芽を切る。
- 6 芽が分かれてのびたらネットにまきつける。
- 7 7月になったら肥料を追加する。

水やりが協力してくれる人をぼ頼します

2

森さんたちは、「緑のカーテン」を作るための、同じ学年の友達に協力してほしいと思います。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

水やりが協力してくれる人をぼ頼します

大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。しかし、水やりはとっても大変です。なぜなら、

イ

このように水やりはとっても大変なので、たくさんの方の協力が必要です。協力してくれる人はわたしたちに声をかけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。

解説

B区分（主として「活用」に関する問題） [2] 一三

目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くことができるかどうかをみる問題です。

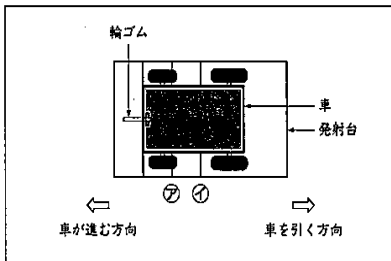
目的や意図に応じて、取材の内容や方法を工夫し、書く事柄を収集した上で、具体的な事実と自分の感想、意見等とを区別しながら必要な内容を整理して書く力が必要になります。

読み手に自分の伝えたいことが分かるようにするために、具体的な事実を基にしたり、複数の内容を関係付けたりしながら、必要な内容を整理して書くことに課題がみられます。

3

かずやさんたちは、ゴムの力で動く車を作りました。

下の図のように車と発射台を輪ゴムでつなぎ、車を引いて輪ゴムをのばしてから放すと、車が進みます。車の先頭が、図の②の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合と、①の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合に、どれだけ車が進むのかを調べます。



次に、車の先頭が②の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合、車が進んだきよりを5回調べ、表2のようにまとめました。表2をもとに、きよりの平均を考えます。

表2 ②の位置に来るまで輪ゴムをのばした場合の記録

| 回数 | 車が進んだきより |
|----|-----------|
| 1 | 7 m 52 cm |
| 2 | 7 m 31 cm |
| 3 | 7 m 54 cm |
| 4 | 7 m 20 cm |
| 5 | 7 m 43 cm |

かずやさんは、平均を求める計算を簡単にするために、7 m をこえた部分に着目し、次のように平均を求めました。

【かずやさんの平均の求め方】

7 m をこえた部分の平均を求めます。
 $(52 + 31 + 54 + 20 + 43) \div 5 = 40$
 7 m に、求めた平均の 40 cm をたします。
 車が進んだきよりの平均は、7 m 40 cm です。

【かずやさんの平均の求め方】を聞いたはるなさんは、次のように考えました。



7 m のかわりに、7 m 20 cm をこえた部分に着目しても、平均を求めることができます。

(2) 7 m 20 cm をこえた部分に着目した平均の求め方を、言葉や式を使って書きましょう。

解説

B区分（主として「活用」に関する問題）3-（2）

仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

算数で学んだことを他教科等の場面に活用し、算数の有用性を実感できるようにすることが重要です。本問題では、理科の学習場面に関連して、ゴムの力で動く車が進んだ距離の平均を求める場面が設定されています。測定値の平均を求める際、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりする力が必要です。

示された平均の求め方を解釈し、それを適用した平均の求め方を数学的に表現することに課題がみられます。

※ 左の枠は、下書きに使用しても構いません。解答者は必ず解答用紙に書くこと。

玉を受け止めるときは、

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

② 石井さんは、けんを近づけてスートをします。次は、石井さんが「玉」をすなまに採れた。その時、リハールで実験した「スーパース」は、リハール後に追加された「実験」で、「玉」を採る。これを採ることで、あの間に採ることを「スーパース」は、その期間で「実験」を行ったことを表します。「実験」は「玉」も「玉」に採ることを表します。

【図】

【図】

【図】

【図】

【図】

解説 B区分（主として「活用」に関する問題） 2—3

相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかをみる問題です。

自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには、事実や事柄と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話す力が必要になります。

相手や場に応じて適切な言葉遣いをしたり、目的や状況に応じて資料などを効果的に活用したりして話すことに課題がみられます。

5 体育委員会は、全校生徒の体力向上のために、1週間で420分(1日あたり60分)運動することを目標にしようと考えています。そこで、体育委員会は、全校生徒の1週間の総運動時間を調べるアンケートを実施しました。体育委員の若菜さんは、全校生徒のうち女子の結果を、下の度数分布表にまとめました。

1週間の総運動時間の度数分布表(女子)

| 階級(分) | 度数(人) |
|-----------|-------|
| 以上 未満 | |
| 0～300 | 55 |
| 300～600 | 12 |
| 600～900 | 26 |
| 900～1200 | 29 |
| 1200～1500 | 15 |
| 1500～1800 | 6 |
| 1800～2100 | 2 |
| 合計 | 145 |

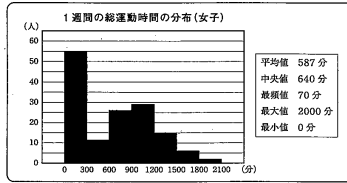
次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

(1) 1週間の総運動時間の度数分布表(女子)において、420分が含まれる階級の度数を書きなさい。



(2) 若菜さんは、女子の1週間の総運動時間について調べたことを、次のようにまとめました。

若菜さんが調べたこと



若菜さんの1週間の総運動時間は670分です。全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間より長い人が多いのか、短い人が多いのかは、670分がある値と比べることでわかります。その値が、下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

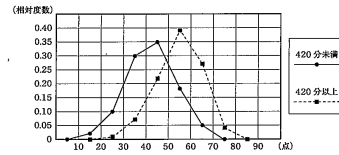
- ア 平均値
- イ 中央値
- ウ 最頻値
- エ 最大値
- オ 最小値

(3) 若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

体力テストの合計点の度数分布表

| 階級(点) | 420分未満 | | 420分以上 | |
|-------|--------|------|--------|------|
| | 度数(人) | 相対度数 | 度数(人) | 相対度数 |
| 以上 未満 | | | | |
| 10～20 | 1 | 0.02 | 0 | 0.00 |
| 20～30 | 6 | 0.10 | 1 | 0.01 |
| 30～40 | 18 | 0.30 | 6 | 0.07 |
| 40～50 | 21 | 0.35 | 19 | 0.22 |
| 50～60 | 11 | 0.18 | 33 | 0.39 |
| 60～70 | 3 | 0.05 | 23 | 0.27 |
| 70～80 | 0 | 0.00 | 3 | 0.04 |
| 合計 | 60 | 1.00 | 85 | 1.00 |

若菜さんが作った度数分布多角形



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、若菜さんが作った度数分布多角形の及ぶ度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

解説

B区分(主として「活用」に関する問題) 5-(3)

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題です。

日常生活や社会における問題解決のための構想を立てることができるようにするために、データを収集・整理し、傾向を捉えて説明する一連の活動の後、問題解決の過程を振り返り、処理の仕方を見直した上で、必要に応じて新たなデータを収集したり視点を改めて整理したりして分析する力が必要になります。

資料の特徴を捉え、根拠を明確にして事柄が成り立つ理由を説明することに課題がみられます。